

戸外の通り庭を共有する町屋群【佳作】

設計者



野々川光昭



中西暁



高木俊希



高羽悠介



北田莉沙

◎設計主旨

津島型町屋の外観の特徴は、「尾張型町屋」が中心になり、それらが直接通りに面して建ち並ぶ。そして町屋と茶の湯が融合する町衆文化が津島の町屋の特徴のひとつで、通りに対して表は目立たず内に意匠をこらすといった町衆の見識が建物に現れている。

時代の変遷とともにこれらの要素の中に空間機能を変えた車の存在や、木造以外の素材も現れ過去の均質な町並の中に空地（駐車場）が生まれ、新しい要素も入り込み町の景観が変わりつつある。

本町筋の魅力ある特性を損なうことなく車をはじめ、かわろうとする要素を取り込む将来の生活を予見する提案とする。

○駐車：外部からの来場者には本町筋周辺の駐車場を用意し、住民の駐車場は敷地内に確保する。表通りから見えないように町屋の中に車を取り込む。

○町屋群：津島の街並みの特徴は瓦葺平入りの建物がそれぞれ独立しながら密集し建ち並ぶ。周辺と相互の関係を持てば、ともすれば町屋群の中に埋もれてしまう空間に機能と広がり魅力が生まれる。

○通り庭：町屋の特徴に通り庭がある。これを戸外の半私的空間とすることで、より多くの機能を持ち、多くの住民に寄与する。

○路地：に長い町屋は災害時に二方向避難が困難になる。建物間の空地を避難兼用の路地とする。

○定期借地権：奥に長く敷地形状が不整形な土地や、利用されていない土地などを借り受け、有効利用を図る。

○省CO₂：クリーンエネルギーの時代を迎え、創エネとパッシブデザインとする。

◎講評

○難波和彦審査委員長

町家の特徴である通り庭を、本町筋につながる屋外の庭とすることによって、多様な機能を持ち、多くの人達が利用できる庭空間を生み出そうという提案です。通り庭を屋外化し、多孔質な場所に変えようという意図は理解できますが、結果的には散漫な外部空間になってしまっている点が惜しまれます。

○朝岡市郎審査委員

奥深い敷地を活用するため、隣接する敷地に共同の通り庭などにより本町筋のおもむきを損なうことなく生活しやすい町家群の再生の提案です。

既存の建物の生活環境の改善と有効な活用によるにぎわいを取り戻すことを詳細に検証している素晴らしい提案であると思います。

○浅野聡審査委員

この提案は、現存する町家と隣接する空き地をペアにすることを前提にして、新築と保存という新旧の組み合わせによって敷地全体を活性化しようとする点が特徴的です。空き地の所有者が私有地を開放することを前提としていることから、隣り合う所有者間の合意を生み出すために、私有地を開放するメリットやプライベートな住宅と店舗等とを共存させるための運営方法についても提案があるとより高い評価になったことと思われまます。

○生田京子審査委員

街道沿いに新たに建物を挿入する際に、街並みに配慮しつつ店舗や住戸の複合形態をうまく馴染ませる努力がなされている。更なる新規性や提案力があると良かったように思う。

○清水裕之審査委員

既存町屋の改修と隣接する空地に新しい建物を奥に長く作り、その間に屋外通り庭を配することで、表から奥にかけての内外部空間の再構築を提案していることが特徴である。この提案はすぐにでも実現できる案であり、その意味で価値がある。

しかし、戸外通り庭の駐車スペースと、既存建物との関係や外部空間の在り方が十分に練られているとは言えず、さらなるデザインの検討が必要に思われた。

○日比一昭審査委員

戸外の通り庭で町家をつなぐというアイデアは、興味深い提案でありました。さらに、住居や公共空間としての発展的な提案があれば、もっと評価されたのではないかと考えます。